

科目名: <b>税理士のための簿記論Ⅲ</b>		科目コード	EJ24
科目主査: <b>矢島 正</b>		単 位	2
担当講師: <b>土屋 晴行、矢島 正</b>		配当年次	3・4
授業の目的と概要	グループワーク: <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	個人ワーク: <input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	カラ・マイクの必要性: <input type="checkbox"/> 必須 <input type="checkbox"/> 望ましい <input checked="" type="checkbox"/> 不要
<p>簿記は、企業という経済主体が行う経済活動を貨幣額に基づいて記録、計算し報告する技法を学ぶのではなく、すべての取引を複式簿記のルールに基づき、各論点についてあるべき結論を導き出すための数字の動かし方(仕訳の仕方)を理解、使いこなせることが必要です。本科目では、株式会社の基本的な取引を内容とする簿記処理を体系的に理解できるようになることを目指します。</p>			
履修の前提となる科目	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	科目名:	
履修の前提となる知識 その他特記事項	簿記3級以上の資格を持っているか、同等の知識がある方が対象です。 テキストを精読するとともに、テキストの例題を解き、理解を深めてください。		
テキスト	『税理士 簿記論の教科書&問題集(3)』TAC税理士講座(編),TAC出版		
この科目の 到達目標	<p>①企業で行われる簿記処理を理解して、実際に仕訳処理などを行うことができる。</p> <p>②簿記の資産会計について体系的に学習し、実際の解き方を参考にして、自分の解き方を検討・確立し、税理士試験の基礎固めができる。</p>		
成績評価 の方法	出席状況(課題提出含む)、最終試験で評価します。		
事後学習	簿記の問題は、1回解いたら終わりというものではありません。テキストの例題、巻末の問題集を繰り返し解くことが重要です。繰り返し解くことによって知識が定着し、解答スピードが速くなり、正確さも向上します。		
事後学習の 参考文献	<p>『税理士 簿記論 総合問題の解き方』TAC税理士講座(編),TAC出版,最新版</p> <p>『税理士 簿記論 個別問題の解き方』TAC税理士講座(編),TAC出版,最新版</p> <p>『税理士 財務諸表論の教科書&amp;問題集(3)』TAC税理士講座(編),TAC出版,最新版</p>		
スクーリング受講時に用意するもの			
<input checked="" type="checkbox"/> テキスト <input checked="" type="checkbox"/> 筆記用具 <input checked="" type="checkbox"/> 電卓			